

平成26年度第2回市民協働のまちづくり推進委員会 会議録

【開催要領】

- 1 日時 平成26年度7月17日(月) 9:30~11:18
- 2 場所 常総市水海道庁舎2階庁議室
- 3 出席委員
 - 会長 沼尻 保 自治区長連絡協議会(曲田六軒自治区長)
 - 副会長 平井 丈史 教育委員
 - 委員 堀越 輝子 ネットワーカー常総会長
 - 〃 中山 美代子 常総市社会福祉協議会副会長
 - 〃 横島 鮎美 三坂児童館・ひばり会長
 - 〃 横田 能洋 茨城NPOセンター・コモンズ常務理事事務局長
 - 〃 星野 立子 女性団体じょうそう事業委員会事業委員
 - 〃 稲石 高志 常総市商工会青年部部長
 - 〃 木村 三益 丸三商事工業(株)代表取締役社長
 - 〃 柳田 浩一 結城地域青年農業士連絡会
 - 〃 須藤 一徳 常総市市民生活部長
- 4 欠席委員
 - 委員 小川 好市郎 常総市消防団副団長
 - 〃 小椋 チアゴ NPO コムニダージ代表
- 5 委員以外の出席者
 - 常総市長 高杉 徹
 - 市民協働課 課長 平間 美知子
 - 〃 副参事兼課長補佐 亀井 光一
 - 〃 主査兼係長 渡邊 高之
 - 〃 主任 佐内 真由美

【議事次第】

- 1 開 会
- 2 議 事 市長諮問に対する具体的施策について
- 3 その他
- 4 閉 会

【本文】

(沼尻会長) おはようございます。まちづくり推進委員会，ご多忙の中ご出席いただきましてありがとうございます。今日は傍聴ということで，広報にも出されたようでございますが，傍聴者は無いようでございます。

会議をこれから開会したいと思います。それでは開会にあたりまして，いろいろお忙しいところ市長さんにご臨席をいただいておりますので，市長さんにご挨拶いただきたいと思います。お願いいたします。

(高杉市長)

皆さんおはようございます。今日は私も午前中は時間を取って最後まで出席をして皆さんの意見を参考にさせていただきたい。非常に楽しみにしています。冒頭，私の方からまちづくりに関することを3点程お話しさせていただきます。良いニュースもあれば悪いニュースもあるのですが，一つ目ですけれども，皆さんにお配りした星野富弘さんの花の詩画展，これは常総市と教育委員会が主催で8月の1日から10日までの10日間，常総市の生涯学習センターで開催されます。この星野富弘さんは皆さんご存じかと思うんですけれども，実は中学校教師をしている時に体操の演技をしている時に大けがをしまい，首から下が不自由になってしまいそれ以降，口に筆をくわえて絵や詩を書くことを始めまして，それからこのような美術館になってきたということです。我々としては，一つは素晴らしい詩と絵を観ていただきたいと同時に，障がいを持つ方でもこれだけ活躍出来るんだという社会福祉的な面からも，子どもたちも含めて多くの市民にアピールして，この素晴らしい詩画展を成功させていきたいと思います。なお，もう一つの特徴は，今回花の詩画展を実施するにあたりまして，市役所の職員だけではなくて，市民ボランティアの皆さんに運営を手伝っていただこうと，ボランティアの募集をしたところ，270名を超えるボランティアの方が協力を申し出てくれて，このボランティアの方たちが会場の受付，案内，レジのカウンターも含めて，ボランティアが中心になって運営できるという形で新しい試みをしたところなんです。どれだけ出来るか不安な面もあるんですが，思い切って市民ボランティアの方たちに全面的に運営をやっていただこうと，もちろん我々公務員も参加をしますが，ある意味では市民協働的

スタイルで、この詩画展を企画運営していきたいと思っています。
皆様方も是非、いろんな方に声をかけていただいて、多くの方にこの詩画展に来ていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

2つ目は、残念なニュースなんですけど、今日の新聞を見ていただいた方はわかると思うのですが、常総市の市立図書館が、当分の間、閉鎖することになりました。これは図書館の空調施設を全面的に新しくしようということで、改修工事をするにしていたところ、その過程で、天井からアスベストそのものではないのですが、吹きつけの一部にアスベスト材が使われていたということがわかりました。常総市でも実はアスベスト問題が全国的に問題になった2005年に一度調査はしたのですが、その時には残念ながら発見できませんでした。今回、実際に空調の改修にあたって詳細に調べたところ、初めてアスベストが基準値を超える範囲で使われていたということが判明したので、急遽、昨日、臨時庁議を開催して、市民の健康、安全を最重視しようということで、昨日の午後から市立図書館を閉鎖させていただきました。早急にアスベストを除去し、かつ空調設備を新たに改修して、出来るだけ早く再開出来るように努力をしていきたいと思っています。ただ、数ヶ月かかるのではないかと考えています。たいへん残念なのですが、皆さんにご報告したいと思っています。

3点目、まちづくりに関するニュースなんですけども、懸案であった、水海道地区のプラザの後に、6月23日、正式にカスミが茨城県に大店舗の届をして、入ることが確定しました。今月7月22日午後3時から水海道公民館でカスミ開店に伴う地元説明会を開催することになっております。この地元説明会で基本的に地元の方の了解が得られれば、大規模小売店舗立地法に基づいて、8月から工事を着工し、カスミの予定では、来年2月12日にオープン出来るようなかたちで建設に向かいたい、という意向を示しています。これも水海道のまちづくりにとっては、たいへん明るいニュースでありますので、ご報告したいと思います。以上、3点についてご報告し、私の挨拶といたします。

(沼尻会長) ありがとうございます。議事に入らせていただきます。事務局の方からお願いします。

(渡邊係長) 本日の資料のご確認をお願いします。まず議事次第，続きまして諮問1に対する皆様の意見が3ページにまとめてあります。これは委員さんの意見を箇条書きにしたものです。さらにカテゴリーに分けてあります。庁舎のハードに関するもの，庁舎のソフトに関するもの，市役所内部に関するもの，具体的施策に関するものなどに分けてあります。箇条書きに書いてあり，最後に委員さんの名前と別添の委員さんから提出された提案の該当ページ番号が書かれています。

諮問2についても2ページあります。さらに市民活動団体等基本調査の綴りがあります。43ページあります。24年度の資料で古くて申し訳ありませんが，参考として付けてあります。一番後ろに傍聴券の控えと傍聴券が綴じてあります。このようなかたちで傍聴受付しまして傍聴券を発行するという流れです。それからもう一枚，平井委員のFAXがお手元にあると思いますが，これは先日お送りしました資料の15ページの部分，このページにFAXで写っていない部分がありまして，このページをこちらに差し換えていただきたいということで添付してあります。以上です。よろしくお願いします。

(沼尻会長) それではただいま事務局から説明がありましたが，初めての委員さんもいるようですので，市長さんの諮問に対していろいろご意見いただいていますので，進め方としてその方々より要点だけご説明いただいて進めていった方がいいのではないか，と思うのですが，いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは一人ひとり要点だけご説明いただいて，それからいろいろご討議いただいきたいと思いますので，よろしくお願いします。それではみなさんから戴いたご意見の要点だけをまとめた資料を事務局より出していただいているのですが，どちらを使って説明してもらいますか。みなさんから直接出してもらったものを見ながら説明してもらおうということでよろしいですか。それでは順番に従いましてご説明いただきます。最初は堀越さん，よろしくお願いします。

(堀越委員) 私は自分の所属しますネットワーク常総に持ち帰りまして皆さんにお聞きしました。集まる人数が少なかったので意見が少なめで申し訳なかったです。今の状況が震災のために分散されていますので，とにか

くあちこち行きたくないという意見でした。また、待っている時間が長い場合もあるので、そういった時にちょっと時間潰しできるような工夫があればよいということ。

定住人口の増加についてですけれども、市民サービスを向上してほしいということで、証明書ひとつ取りに行くのもすごく待たされて、日曜日に体育館で発行してもらうのはありがたいのだけれども、あんまり待っているの、であれば近いところを往復したほうが早かったかもしれない、という意見もありました。また、子育て世代が生活しやすい環境ということで若い世代が住まないことには、魅力ある街でないとも人口が増えるのは難しいかと思えます。下にもありますように、働く場所がなくて同級生があまりいない。私自身も感じているんですけど、自分の歳ぐらいの人で結婚するのを機会に、守谷ですとか、つくばに住んでいまずというのが、結構多いです。空き家ですが、空き家が荒れてしまっていて、木がぼさぼさで何とかしてくれ、とか。常総市では空き家条例が出来て、今後こういったことについては、積極的に取り組んでいただけたらと思うのですが、ただ管理するだけでなく、そこに人に住んでもらって、安い住宅として供給できて、若い世代が住みやすいようなまちづくりに工夫して持っていければいいのかなと思いました。以上です。それでみなさんの意見を見させていただいて、ほんとに若い世代が住みよいまちづくりをしてほしいということで、いろんな意見があったのですが、須藤委員のご意見にありました、常陸太田の子育て支援で私たまたま今年子育てしてまして、子連れで常陸太田に行ってまいりまして視察してまいりました。資料がありますので回しますので合間に見ていただければと思います。まちなかでカフェを立ち上げて、商店街でカフェを立ち上げて「結+1」というお店をやっているんですけども、子育て支援カフェ、立ち上げのメンバーの一人が女性の設計士で、私の昔から知っている友達だったので、場所がですね、県北という場所から人口減少が深刻な問題で、常陸太田の方では市の総合振興計画の第一の課題として人口の減少問題について取り組んでいます。おむつ代を出してあげるとか住宅の補助を出すとか、いろんな面でやっているんですけど、やはり限られた予算の中でやっているの、お年寄りの方の敬老祝い金をカットしても、そちらに回したというお話でした。やはり何かやるのには痛みを伴うけれども将来のためには今やるしかないということで、取り組んで

いるということでした。以上です。

(沼尻会長) ありがとうございます。それでは続きまして、中山さん、よろしくお願ひいたします。

(中山委員) はい、私は社協の方の代表で出させていただいて、課題としましては市民に親しまれる市役所であるためにはと、定住人口の増加、そのための市民活動、市街地の活性化、福祉サービスを含めた方策、の2点で一生懸命考えて、婦人会とか、民生委員の集まりなどで話し合いをしましたがけれども、あまり意見も出ませんでした。社協のほうの横島さんとの話し合いで、ずらずらと福祉優先で私の意見としてあげさせていただきました。これを読んでいただければ、私はこんなことがあったらいいなど、一つでも当たればいいかなという感じで、ずらずら書かせていただきましたので、これを読んでいただきたいと思います。以上です。いっぱい出してしまってますいません。

(沼尻会長) では皆さん、合間に読んでいただきたいと思います。続きまして、横島さん。よろしくお願ひします。

(横島委員) はい。よろしくお願ひいたします。私がいる母親クラブひばりというのは、三坂にある三坂児童館というところを拠点にして活動をしているんですけども、その児童館に集まる私たち子育て世代とおばあちゃんたちのシルバーリハビリ体操などもありまして、幅広い世代からいろいろな世代からいろいろな意見をいただけてきました。いろいろ書いてあるんですけども、子育て世代からきたお話ですと、やっぱりキッズコーナーを新しい庁舎に作ってもらって、そこでちょっと遊ばせている間に、安心して私たちが手続きが出来るようなそういうスペースですとか、ビデオ流すとかそこに集中して子どもたちが居てくれるスペースを作ってもらいたい。すくすく課によく行くことがあると思うんですけども、すくすく課より遠いところにあったら意味が無いんです。なるべく目の届く範囲で、「あっ、ちゃんと遊んでいるな。」と確認しながら、手続きが出来るといいかなと思います。私、この間石下庁舎に行ったのですが、住民票を取りに行ったのですが、住民票を取っている真後ろにベ

ビーベットのぼつんと置いてあって、それじゃ意味が無いんです。私が背中を向けてしまうので、ベビーベットに置いといて手続きしましょうというのは、私たちからするとちょっと違うんです。目が離れてしまうから。なるべく近くにいてほしい。だけど手続きも集中したい。そういうところを考えていただければと思います。

ベビーベットなんですけど、おむつ替えをそこでやりなさい、と言われても、ちょっとかわいそうなんです、子どもが。私たちやっている方もみんなの目が気になってくる。なので、なるべく個室でベビーベットなり、おむつ替えの台なりを作ってもらえるとありがたいです。トイレの個室に作ってほしいです。ちゃんとドアも閉まる。

欲を言えば子どもの医療費全額無料。実はこの近辺見ますとここだけなんです、医療費がかかるのが。坂東とか下妻とかつくばは、子どもの病気で行って600円払うんですけど、それが市から返ってくるのです。なので実質無料というような状況でやっているんですけども、ここだけなんです。常総市だけ600円が帰ってこないんです。結構、つくば市の友達などと話すと、「なんでっ。」とみんなに驚かれることが多いので、私も以前、坂東市に住んでいたのが、こっち来て「あっ、600円返ってこないんだ。」と衝撃というか、ちょっとびっくりしたことがあります。600円、たかが600円ですが月2回行けば払わないしと思うかもしれませんが、私は子ども3人いるので、3人一緒に風邪引いて行ったら3人全部それだけで掛かるというのは負担と言えば負担です。医療費だけ600円だったら600円を3人分払ったら、その後、風邪をひいているから食事をとれないからスーパーでいろいろ買い物もしますよね。そういうところで辛いかなってというのは最近感じます。

それから3人目から支援金支給。常総市は確か3人目産んだら2万円だったと思うんです、いただいたんです、ほんとに比べて申し訳ないんですが坂東市は50万円なんです。それを聞くと産む直前に坂東市に引っ越しちゃおうかなと本当に思ってしまうぐらい、その差とかを考えると、守谷はどのくらい出るのかわからないんですけど、坂東市や守谷市に住んでいる方は、2人目がいて、どこかにそろそろ定住しようということで、守谷なりいろんなところに住むと思うのですが、そろそろ子どもも幼稚園なり学校なりに入るので、どこかに拠点を決めましょうということでマイホームを購入するんですけど、住んでみて、すごく子育て

しやすいので、「もう一人いてもいいよね。」ということで3人目産む友達がすごく多いんですね。それで3人目産んだら50万円もらえるし、やってけるよってことで結構3人目つくる方が私の周りには多かったのので、それを聞いた時に、私3人目産んだ時に2万円しかもらってないという、そういうお金で考えて本当に申し訳ないんですけど、ちょっとなと思っちゃいました。

私の子どもは三妻小に行っているんですが、三妻小ってバス通と電車通と徒歩通の子がいるんですね。電車代もバス代も全額負担なんです。私たちは。それちょっと辛いかなというところです。一人目、一人だったら一人分の通学費だけで済むのですが、うちは二人通っているのでもう2倍、そのうち3番目入って3倍、全部私たちの負担になってしまうので、ちょっと辛いというところがその、三坂児童館には、三妻小地区の子どもたちがいっぱい行くので、そこのお母さんたちがいっぱい来ているので、「電車代辛いよねー。」という話とかしていました。

あとすみません、学童なんですけど常総市、ありがたいことに無料でやっていたらいいんですが、ほんとありがたいんですが、学童6年生まで伸ばすと、かなりの学年の子どもたちが来ますよね。その時、無料でそのスタッフの確保は出来るんですかというところがちょっと不安で、有料化してでも子どもたちの安全面にもっと目が行き届くくらいのスタッフを確保してほしい。この辺ですとたぶん常総市だけが無料だと思うんですけど、本当にありがたいんですけども、もう少しお金かかってもいいから、もう少し保障というか目の行き届いたちゃんとした支援をやってほしいということです。

それからいっぱい意見が出たのが福祉タクシーでして、それもおばあちゃんからいっぱい出たんですけど、チケットが返金できない。本当にいやだと言われました。急な用事や病院の待ち時間延びてすぐ帰れない、すぐ帰りたいという時の対応を全然してくれない。それもちよっといやだなということでした。予約がいっぱいで取れないとか、という話が多かったです。

諮問2の方なんですけど、ほとんど1の方と重複してしまって、子育てに関することがいっぱい多かったです。

ドラマの撮影とか映画の撮影してると思うんですけど、それに関してもうちちょっとアピールできないのという話がありました。よろしくお願

します。

(沼尻会長) どうもありがとうございました。それでは続きまして横田さん、よろしくをお願いします。

(横田委員) 北水海道に事務所を置いて NPO 関係の仕事をしている横田と申します。市民団体の活動からしたときに実際自分も感じたのは、いろんなイベント、会議をする場所が少ないなというのがありまして、この支えの活動を広げるためにも、もう少し活動しやすい拠点整備はあってほしいというふうには思いました。それから外国の方のサポートに関する仕事をしたり PTA とかをやっていると、本市の特徴はそういう外国の方が多いというところで、通訳の方が 3 名以上いらっしゃるというのは県内でも非常に多いと思うんですけど、カバー出来る言語に限りがあると思うので、できればいろいろな言語に対応できる窓口を一ヶ所置いて、必ずしも中国語とかベトナム語とか、全ての通訳は置けないと思うので、電話でも対応できるとか、そんな仕組みは作れるので、もう少し窓口態勢の整備をして、これから介護とか年金とか、いろんなサービスを受ける方が増えると思うので庁内で整備されたほうがよろしいのではないかなと思います。

それから市民活動、人口の話で、先ほどの方からも児童館の話があったのですが、水海道地区の児童館も本当に 1 月頃申込むと、そこから後は全然申し込めないで、外国のお子さんなんかは、実際子どもさんが学校終わってお父さんの仕事が終わる、夜 8 時まで、この暑い中、車の中で毎日過ごすような子どもがいます。図書館で補習の部分がありますが、あそこには外国のお子さんはほとんど入れていない。お金がある方はブラジル学校が経営しているところで、一時預かりもいっていますが、お金のない方のお子さんは、本当に放置されている状態で、何もしないと学習の低下、未就学に繋がるので、そういうお子さんがちゃんと補習が受けられる環境は是非作っていったほうが、逆にそういったお子さんたちがしっかり高校まで出て行けるようになると、この地域でそういう方を必要としている仕事がたくさんあると思いますので、保育から、教育から、進学までの支援体制を作るとか、それを支える市民活動や国際交流協会が必要ではないかと思います。以上です。

(沼尻会長) ありがとうございました。続きまして星野さん、よろしくお願ひします。

(星野委員) 私は、女性団体じょうそう事業委員会からまいりました。各市で活動している女性団体の代表者26名とハーモニーフライト茨城参加者5名、市議会議員女性の方4人で構成されております。全員が女性なので、女性の目から、ちょうど総会がありましたので、皆さんにお聞きしました。

書いてあるとおりなんですけど、先ほどもありましたように、引っ越して来た時にあちこち回されるというのが一番あって、わかりづらいということなので、ボランティアでもいいから案内人を付けて欲しい。ということと、障がい者雇用の支援として、軽喫茶コーナーを作ってもらいたい。という意見がありました。それから待っている間に、地元の野菜とか手づくり品とか、物産コーナーがあれば、ちょっと時間が潰せるかなということと、先程、お子さん連れということもありましたが、簡単なキッズコーナーを市民課というか、総合案内のところに置いてもらいたい。それと、トイレにおむつ交換所がないということで、今、男性の方も子育て参加しているので、先日聞いたら子どもを置いてトイレ出来ないということで急いで家に帰った。という話も聞いたので、男子トイレにも女子トイレにもおむつ交換所なり、子どもがちょっと座れるようなところを作って欲しいということ。

それから、せっかくあすなろの里というところには、いい入浴施設があるので、一般の方が利用出来るのは、午後1時から4時なんです。そうすると、お勤めしている人とかは絶対利用出来ないということ、宿泊者のためということもあると思うのですが、なんとか、そここのところを変更していただければなあ、という意見がありました。

それと、先程の横田さんのお話なんですけど、インターネットで市長さんの挨拶の中に、子どもが学ぶキッカケをということで、小学校4年生から6年生で、無料指導がスタートしたということで、希望者が多いということなのですが、ブラジルの子で、やはり学校、普通の小学校に行っているんですけど、授業についていけない。お金があれば、そういうブラジル学校なり塾に行けるんですけど、言葉もまだちょっと自信がな

いという子は高校に通えるんですか。という話をちょっと聞いたので、普通の小学校にあがっていけば、通訳を付けてでもそこで勉強したいと言う子もいるということなので、是非そういうことが大丈夫かどうかということですか。お願いします。

それから定住人口の増加ということで、市街地の活性化で、どうしても街の中が寂しいと思うんですね。何時に歩いても、夜なんか特に、夜賑やかであればいいということではないんですが、もう一日中閑散としていて、行くのは銀行とカスミ、今度こちらに大きなカスミが出来るということを聞いたので、今度ちょっと違うと思うのですが、ちょっと買い物をする昔の水海道みたいな、そういうところができればいいな、ということと、あとせっかくあの広場があるので、ちょっとわかりづらいと思うんですけど、各市民団体の人たちが、私はごみを減らす会を17年ぐらいやっていたんですが、リサイクルバザーでもいいし、自分たちの作品の展示できたり、売ったりできたらいいなと。それから野菜作っている人はそこに持っていくという、宝町では月に1度、神社のところでバザールやっているのですが、それも最初のころは花火が上がって、私も行こうかと思ったのですが、行っても楽しめるということが欠けている気がするので、もっと多くのボランティアの人達が参加出来るような、ボランティアの人達が責任を持ってイベントを創るというようなものがあるといいなと思います。それから花火、お祭り、千姫まつりとか、千姫まつりはいいと思うのですが、花火の時は花火を観て帰るだけではちょっと勿体ないので、街の中にお店があって、そこで買い物しながら行くとか、そういう本当に、私、天満町で、歩いて花火会場まで行くのですが、ただ行くだけの全然楽しくないというか、ちょっと寄れるような、寄って遊びながら花火を見てっていうのも必要かなと。お祭りがあるんじゃないかと言うのですが、何か大きなイベントの時は、街にお金落ちるような、そういうのも必要かなと思います。街の中、安心して歩けるようなところが欲しいなということですか。以上です。

」(沼尻会長) ありがとうございます。それでは続きまして柳田さん、お願いします。

(柳田委員) 三坂の柳田です。農業やっていて青年農業者というのをやっている

んですが、常総市ではちょっと数が少なくて、なかなか意見が見つからなかったの、思ったことを書かせていただきました。議会のネット中継などをしてもらったらいいかなと思うんですけども、こういうのは茨城県などでも早くから議会でやっていたんですけども、なかなか見る機会というのは無いと思うので、市役所に用があって来た時ぐらい見られたらいいなと思うので、待合室なんかにこう、今どういうことを議論している、なんていうのをちょっと出してもらえれば、興味を持ってもらえるのかなと思いました。

また、各団体、どういう活動しているのか、わからないものですから、そういうのを紹介してもらえたらいいなと思います。

さらに定住人口を増加させたい件なのですが、友達が東京から帰って来て、子ども連れて帰って来た時、帰ってきて遊ぶ場所がないので、また東京に帰りたいていう子がいるので、ちょっと寂しいのでそういうのをなんとかしてもらいたいと思いました。以上です。

(沼尻会長) ありがとうございます。それでは続きましてお願いします。

(平井副会長) 平井でございます。市長さんの方から二つの諮問がありまして、一つ目なのですが、親しまれる市役所であるには、ということですが、おそらくこれはハード面でもソフト面でも専門家の方の考え方とか皆さんいろいろな立場から具体案が出ていると思いましたので、ちょっとまた、別の角度で考えたのですが、実際、常総市大事なことで、情報提供ということでまず書きましたが、非常に大切なことなのですが、私が個人的に接している限り、非常によくやってくれている、出来ているような気がします。こういうことも我々ちゃんと認めるということおかしいですけれども、納得することも大事かなと思います。それから役所の方々、行政というのはサービス提供者としての行政、そういう意識が基本だと思うのですが、だんだん意識改革というのは進んでいるような気がします。ですから、その辺は自身持っていていただいてもいいんじゃないかなと思います。

では、具体的にどうしたらいいかということなんですけど、まあ結局、私個人としては、行政の職員が市民の立場で企画運営対応していく、それが基本じゃないかなと思うのですね。極論言えばですね、どんなに古

い庁舎でも、おんぼろでも職員の方が誠心誠意持って温かく、市民の方に寄り添ってあげるといった意識がある。それが一番大事だと思います。でもそれだけ言っていたのでも始まりませんので例えば、細かいことでも先程横島さんが言っていたようにベッドの置き方一つでも具体的なんですが、そういう具体的な意見をどんどん吸い上げてくれていけばと思います。私個人としては、市役所だとか市民サービスというのは、人かなと、漠然としていますけどそこにあるのかなと思っています。いろいろありますけどそんなところですよ。

次に、常総市の定住人口を増加させたい、そのための市民活動とは何かとか、市街地の活性化、福祉サービスということなんですけど、やはり基本はですね、危機管理がしっかりしていて、人々が赤ちゃんから、或いは一般の方々から、お年寄りまで本当に安心安全な環境で健康に暮らしたい、これが一番だと思うのです。これがなによりで、これがだめだと他のこといくらやっても意味が無いですから、これが基本だと私は思います。これが良ければ少しずつ少しずつ人口が定着していく、そういうことが可能かなと。いろいろ理想的なことばかり言っても経済的ファンダメンタルな部分がないと予算とかもありますから、いろんな意見を実現していくためには難しい部分もあると思うのですが考え方としてはここに書かれていることも動いていくんですけど、実際市役所の方々、市長さんはじめ市役所の方々、いろいろないい方向性を持って、私はいろんな方策が打ち出されて施行されているのかなと思います。ただ具体的に、これから定住人口を増加させたり何かないかと言われた時、私は具体的なものというより、また別の面で書かせていただきました。それは常総市を知って或いは来て楽しんで住んで幸せに暮らしてもらう為には、ちょっと突拍子も無いかもしれないんですけど、市の売りを創出して全国的、世界的なレベルに高めていってというふうなこと、ちょっと長くなるんですけど、常総市のことを考える前に今までの近隣の例をそこに挙げたんですけど、何十年か前に山梨県で甲府に県立美術館を造ったんです。皆さんよくご存知かと思うんですけどミレーの作品を買ったんです。県議会では、そんな高価なもの買ってどうするんだという反対意見があったんですけど、美術館では信念を持ってバルビゾン派の絵なんですけど、それを持ってくれば必ずその良さがわかってくれて、全国からお客さんが来ると信念を持ってやったんです。そうしますと人

がどっと押し寄せまして、今ではもう買った時以上にミレーの作品がいっぱいありまして、ミレーの美術館ということで、全国から今、甲府を訪れているので、経済的な効果はもちろんですけど、文化的なステータスもあって、甲府の人たち、山梨の人たちは非常に満足しているところがあるんです。別府、大分県の別府ではマルタ・アルゲリッチという世界的ピアニストが中心となって、別府が気に入ってくれたからなんでしょうけど、毎年音楽祭を開いています。ここに全国から集まるし、別府の温泉に泊って入っていくというようなことをやっています。それから富山県南砺市の一部なんですけど、利賀村ってところがありまして、そこで本格的な劇場を造って現代劇なんですけど、現代劇の利賀フェスティバルというのがありまして世界的な演劇祭になりました。本当に不便なところで山間にあるところなんですけど、世界から押し寄せて来ます。

その他、花火とか映画とか産物なんかを目玉にした町おこし、村おこし、県おこしっていうのは成功している。その下に本当は書いてあったんですけど、FAX の都合で切れちゃったものですから、皆さんにぺらで一枚差し換えてくださいってのもお配りしたんですけど、その下のところで、じゃあ、ひるがえって本市の場合を考えてみましょう。常総きぬ川花火大会、私も以前の職場で関わりがあって、花火大会、お手伝いというわけではないですけども花火大会を運営している方とお話する機会があったんですけど、日本10大花火の一つ、市長さん、これ言われているのをご存じですか。

(高杉市長) 8番目です。

(平井副会長) 8番目になったんですか、そのころは10大花火の一つだよって言われまして、ええ凄いなあって実際観まして本当に凄くて感動もしましたけど、本当に有名になってきています。これの継続はやっぱり期待したいなと思います。いろいろとこれにまつわるイベントも出来ますよね。これは立派だし続けていきたい。それから次のページに移って、紙面の都合が足りなくなってしまったので、出欠のところにつきということになっているんですけど、本市のことで、これもどなたでしたっけ、フィルムコミッションの話ですね、私も花火大会と同じで前の職場との関わりで関係していました。市民の人たちは市報で見ると、こう

いう有名な人が来ているんだとか、こんなところでこんなことやっているんだと、結構凄いことやっているんですよ、それは事実で、ただ私は職場で、これは余談になるんですけど、いろんなテレビドラマとかいろいろ作るんですけど、私が関わったところでは極端に暴力シーンが強いものと、性的なことで、あまりにとってとこだけは撮らないでくれって言った覚えがあります。少なくともここでは。ここで撮らなくてもその全体のドラマの中でそういうのが出てくると、ここのイメージが悪くなるから、そういうものは止めてくださいってお願いしました。そんなこともあったんですけど、これも経済効果があるって聞いています。それから海老原良夫さんっていう方で、はんこ屋さんの社長さんなんですけど、非常に地道に常総市の文化史について、紙芝居にして何十年も回って歩いてやっているんですね。それからもっといろいろあると思うんですけど、私はそこに書きました。その他にですね、本市が誇れるものを考えてみましたところ、鬼怒川、長塚節、千姫さま、それから柔道なんていっぱいあると思います。そういうものを利用して例えばですよ、これ夢みたいな話かもしれないんですけど鬼怒川、本当に鬼怒川の流れや豊かな自然を舞台にしたドラマを作って、それを映画とか、ミュージカルとか、演劇にしてそれを上演して、上演上演していく、これは通年可能です。花火はボンとやって一年間で終わりです、一年に1回ですから、演劇ですと何回でも出来る、長塚節について言えば、もう文学賞やっています。これを振り出しにして、どなたかもおっしゃいましたね、さらにこれをアピールしていったらということがありました。確かに「土」という小説も素晴らしいし、ちょっと難しすぎるって最近きらいがあるんですけど、本当に凄いと思います、歌人としても凄いんで、そういう偉人の長塚節さんを記念してやっていくという、これは地道ですけど素晴らしいことだなあと、こういうことは地道なことですけど続けることに意義があるのかなと。それから千姫さんなんですけど行列、一年に一辺のやっていますよね。これも夢みたいな話なんですけど、時代に翻弄された一人の女性をオペラにしていく、台本書いてオペラを創る、オペラが一回出来てしまえばずっと継続して何年も出来ますから数年間。或いは今度はスポーツで言えば柔道ですけど、鈴木桂治さんとか小野卓志さんとかオリンピック選手がいるわけですから、本当に珍しいと思うんですよ、一つの市で二人、こんな柔道で。だから二人の名前を冠にした名

前があると思うのですが国際的な試合，小さい子から大人までそういう試合をやって，試合だけではなくてそれに向けた講習会とか，技術の伝達会とか，そういうものを開いていこうということにしていけば，名前が高まっていくのかなと。こういう壮大なことをやっていくのには，大変お金ももちろんかかるんですけど，いろんな人の意見や努力を仰がなければいけないと思うんですが，市のためだったらサポートいっぱいしてくれるんじゃないかと。芸術ですね，この沼尻さんの娘さんなんかも素晴らしいですよ，例えば協力してくれると思うんですよ，そういうことはいっぱい，市民の有志だとか市民の人たちの協力が得れば，逆に俺達の作ったものだ，参加したものだ，働いたものだということで愛着も湧いてくるし，街全体，市全体が盛り上がっていくんじゃないかと思えます。ただ私は，有名になればいいとか，世界的になればいいとかだけではダメだと思います。そこにはやっぱり，人間の本質を突いたような本物のものをきちんと持っていたものでないと長続きしないし，世界から認めてくれないと思えます。そこにはやっぱりここに関わった人たちが，人間としての気持，みんな仲良くしたい，世界が争いの無いみんな仲良くできるような世界にしたい，例えばですね，そういうようなものや自然を大事にしたい。そういうものをきちんとしたものであれば本物ですから，わかる人はわかるものですから認めてくれるのではないかと思います。突拍子も無い意見ですけど，こういうようなところ，突破口から何か，私の言ったことは一例ですから，何か他にも出来ることがあるんじゃないかと，そうすれば常総市も名前がより知れてくるし，いろんな活動も盛んになってくるかも知れないし，人口の増加に繋がればと思います。随分長くなりました。すいません失礼します。

(沼尻会長) ありがとうございます。それでは続きまして須藤さんよろしくお願ひします。

(須藤委員) はい，私，市役所の職員でして，市の職員約500人いるんですけど，皆さんにメール出しまして，今回の諮問に対する提案を呼びかけました。一市民として，或いは市の職員として働いている立場としての率直な意見をいただきたいということでの回答をまとめたものでございます。結構ボリューム的にもあります。内容的にも抽象的なものもある

し、具体的なものもあって、私がまとめる段階でちょっとどうしようかなというのもあったんですが、書いた人が何人もおりますので、思いが伝わるようにと思ひまして、あえて文面等は調整しないで、ほとんど加筆等は加えておりません。ですから統一はされてないんですけども、ここに逐一ご覧いただければと思います。主だったもので私が特に気になったもの幾つかお話したいと思うのですが、まず最初17ページから申しあげまして、一つ目の親しまれる市役所ということについて、最初の方は抽象的な答えでしたけども、市民サービスの向上、対処しやすい関係づくりに尽きるだろうという意見、もっともな意見だろうと思ひました。次にやはり平井先生がおっしゃいましたように職員だろうと、職員の質の問題だろうと、教育をしっかりと進むと、しっかりとすることが必要なんじゃないかというのが一つの意見として挙がっています。

次のページにいきます。職場の整理整頓、これはお恥ずかしい話ですが、やはり市役所というところは文書、パソコンには慣れましたけど文書量というのは相当量ありますので、ですから傍から見ますと見苦しいというか、整頓されていないように見えるかなとも思ひます。今度、新しく庁舎が出来るとは当たっては、私もこの辺については気を付けた方がいいんじゃないかなと思ひます。やはり綺麗になった職場の方が見やすいし、傍から見ても感じが良いと思ひます。これはその通りだなと思ひます。

大きな(3)番に行きますとこれは逆の立場でして、職員の質が上がったとしてもやはり気持ちよく働くためには働く側からとしても環境を整えてあげる、これは経営者側の問題だと思うのですが、整えてやる必要があると思ひます。今、省エネで照明を落とすということをやっています。経費節減には確かに良いんですが、やはり度か過ぎるんじゃないかというご意見です。これは職員からの。さらに休憩場所の問題、これもいろいろあるんですけども、お客さんがたくさんみえる職場で、お昼休みというのは本来は別の部屋を確保してそこで食べさせるべきなのかなと。場所が無いから仕方ないので執務室でお弁当食べている訳なんですけども、市民の目からするとなんでここで食べているのって思ひますよ、ただ食べる場所が無いんで実際、ですからこの辺のところも本当は経営者側は、経営者と言うか、市からすれば整えてあげる必要があると、しっかりと休憩をさせると、職員からすると半分しか休憩でき

ないです、正直な話、お客さんの目がありますんで、昼寝する心臓の太い人もいますが出来ない。実際場所がありませんし。そういうのも職員に知識の向上、待遇の向上を求めるのであれば、反対に職員に対してもそういう環境を整えてあげるべきだろうな、これが職員から挙がって来たのはもっともなご意見だろうなと思います。

次に4番目。これは庁舎のスペースの提供、今後考えていくようではありますが、会議室ですとか第3分庁舎が今後空く予定もありますし、そういうところを提供したらどうだろうかという職員の意見であります。あと建物では無くて敷地内の提供をしたらどうかというような提案もあります。④番はちょっとズレてしまうかもしれないんですが、これ一般的にはまだ良くわかってないかもしれないんですが、一極集中ということ、今、震災でかなり役所の業務が拡散されていまして、今度新庁舎になるとまとまってくるんですが、教育委員会だけは石下に残るようです。この提案した職員の案でいいますと、やはり教育委員会もこっちに将来的に持ってきて完全に一極した方が市民サービスからすると良いのではないかという意見です。これは色々意見がございます。議員さんの意見もございますし、職員もいろいろ問題がございます。ただこの一職員の考えでは一極のが良いのではないかという意見です。

(5)としてはこちら具体的な提案ですけどもホームページ上の情報をもう少しわかりやすくしたほうがいいのか、庁舎内での結婚式等の実施をしたらいいのではないかとか、ちょっと大胆な意見がありました。以前、水海道の市民会館では結婚式場がありましたので、そういうことを思ったのかもしれない。次のページ行きますと、20ページですが、先程の市長の挨拶にもありましたが、図書館が今使えなくなってしまいました。やはり常総市、水海道と石下、大きく二つの地域にありまして、水海道だけにあって石下にも造るべきではないかなという意見です。ちょっと今、図書館で何とも言えないところもあるんですが、石下にも造ったらということです。

大きな2番目の定住人口につきましては、私も色々な委員さんの意見を見させていただきまされたけど、やはり若い人、子育て世帯への支援が職員からも随分出ております。これはやはり若い人たちへの支援をもっとしないとダメだろうなと言うことは何人かが言っておりますんで、この点はやはり強く意見として出ております。中身は見ていただければと

思うんですけども（１）（２）（３）なんかは大体同じような内容かなと思います、流れるには。（４）小学校の統廃合という問題が出ました。これはあまり話題にのぼらない点です。なかなかこれは地元の感情もありまして難しいと思います。ただ私もこれを読んで思ったんですが、実際に若い人たち、子どもをこれから持つ人たちにすると、本当はこういうことなんじゃないのかなと、実際近くに学校があるのが良いと思うんですが、子どもが少ない学校よりはある程度の子どもがいる学校へ行かせたいんじゃないだろうかと、交通はスクールバスというのもありますし、今、端の方に行きますと１クラスが精いっぱいという学校ってのは多いです。昔水海道小学校ってのは４クラスも５クラスもありましたけども、水海道小学校でも２クラスぐらいになってしまった、ですからせめて２クラスぐらいあるような、２クラス以上あるような統廃合した方が子どものためにも良いし、親のためにも良いんじゃないのかなというのがこれです。これは大きな問題ではあるんですが、一応提案として挙がってきています。

５番目の女性の集う場、これも先程の１、２、３と関係するかもしれないんですけども、やはり女性が活動しやすいまちづくり、環境づくりというのを目指すべきだろうと、女性が活動しやすく動きやすいところはやはり活気もあるし、今後の常総市としても明るく行くんじゃないかなという考えは思います。ですからそういう点で色々と事業すべきではないかなというご意見でございました。（６）はちょっと省略させていただきます。以上です。

（沼尻会長） どうもありがとうございました。色々皆様から貴重なご意見、聞かせていただいたところでございますが、この件について、どういうふう
に今後ですね、進んでいくかご意見等もあると思うのですが、全般的に、やはり良いことなんです、やはり一挙にと言う訳にはいかないと思うのですが、こういう中からやはり出来るものを先にやっていってもら
うという風なことで色々皆様ご意見ございましたらよろしくひとつ
お願いしたいのですが。

（横田委員） 確認したいんですが、その新庁舎が出来るのに併せてスペースの問題とかで、置ける置けないとかって言うのは、何処でどういうふうに議

論ができるのか、今日出たものが何処かの場で検討されて、じゃあそのコーナー今からでも設計に間に合うからちょっと置く置かないとか、もうちょっとこの場で具体的なこれくらいの広さでこれくらいの物っていうものがあった方が具体化しやすいのか、何処まで議論をする必要があるのかを知りたいのですが。

(沼尻会長) 事務局の方でどうですか。庁舎の設計ってのはもう工事が始まっている訳ですから、大方の設計は出来ちゃっている訳だけど、庁舎の概要を事務局の方でご説明いただけます。

(渡邊係長) はい、皆さんから提案いただいたことを検証してみたのですが、実際、庁舎をやっている課というのは財政課の管財係というところがやっています、既に図面がもう出来ていて、建設が始まっているという状況です。それで今、ご提案いただいたものがどれくらいできるのかっていうことを詳しく聴いてみました。そうしましたら、横田さんが言われるように、提案がどれくらい実現できるのか、実現できる場があるのかとか、或いは幅があるのかとかそういうことです。形というか配置とかも決まってしまうとどういうふうにこれを運用していくかということが決まっていけないというのが結構あるんですよ。例えば、市民ホールというものが今度出来るんですけど、それは具体的に言うと、入って直ぐの所に、市民の方と市役所の会議がどちらでも使えるようなホールがあって、ここをどういうふうに使っていくかはまだ全く決まっていなそうなんです。だけど開放していくというのは決まっているということなんです。そういうふうには決まっているんだけど、どう運用していくか決まって無いて部分が結構あります。ハード的な面、こういうのを造って欲しいとか、こういうものを新たに設置したらどうかというのは、なかなか対応が難しいと思うんですが、ソフト的な面というか、この空きスペースで何か出来ないか、そういうのはまだ可能性があるかなど。例えば、資料の中で諮問1をまとめたものを見ていただきたいのですが、庁舎を造るに当たって庁舎建設検討委員会というのを設けていて市議会議員や職員が入って議論されていて、いろいろその中で議論があるそうなんです、担当者に聞くと、用件が直ぐ済むように設計されていて、本当にオフィスとしての機能を最大限盛り込んだと。だからあ

まり市民が中に入って色々一緒に活動出来るようなスペースというのを考えてないと言ったらあれなんですけど、それに重点を置いて造っていない。例えば、なるべくあちこち行かなくて用事が済むようにしたい、市民課は1階のワンフロアで用が足りるようにして欲しいということに対しては、教育委員会は石下にあるんですけども、1階のフロアで大体は出来るように配置している。或いは中山さんの提案で、住民が掲示物を貼ったり作品を展示したり出来る自由に使えるスペースを作ってはどうかということで、これは市民ホールっていうところで一般の人が一定期間を貸し切って連続して使えるように仕組みをしていきたいと言っています。どういうふうに規則を作るかというのはこれからなんですけれどもそういうふうに全く出来ない訳ではないけどそういうふう出来るように設定したいと言っています。コーヒーショップを造って市民が集える場所を作ってほしいというところまでは出来ないけれども、自販機がある前にソファを設置するくらいは出来る。或いはキッズスペースなんですけどキッズスペースは横島さんが言われるように市民課の窓口のヨコにベッドがあるところまではいかないのですが、ちょっと凶面を示せないのであれなんですけど1階のフロアのすくすく課の周辺のところキッズコーナーってのがあってキッズコーナーを設けてはあります。さらにその脇に授乳室があります。

(木村委員) コピーして渡した方が早くないか。説明しているより。

(高杉市長) そこに書いた方が良いんじゃないか。ワンフロアのサービスは100%実現出来るし、教育委員会が向こうに行っても教育委員会関係の手続きも市民課で出来るようになるから、少なくとも市民課の窓口が総合案内人を付けて総合相談室も設けるし、それは出来ます。あとは図書コーナーだって本棚置けばいいだけだから全然難しくないです。それから市民会館の会議室的なものを造る訳だからそれは自由に利用できるのです。

(星野委員) 私、思ったのは、西中の図書やっていたんですが、作る時に現場の意見を一つも聞いてくれなかったんですね、私たちはパートのおばちゃんだから。だけど図書室に関わって何十年もやって関わっていたら、ち

よっとは備品のことだとか配置のこととかも、私だけじゃなくて保健の先生もおっしゃってましたし音楽の先生も家庭課の先生もおっしゃっていたんですけど、出来てからはいこれを使って、使い勝手はどうですかって言われても、例えば被服室のミシンを入れるカウンターの机の下にミシンを入れる場所が決まってあったんですけど、在庫のミシンの大きさが違っていたんです。小さければ入りますけど大きいんでミシンがずらーとなっていて。それから図書室もカウンターは卒業生の寄附で3年か4年前からあったんですね、それも見てくれなくて、行ったら小学生が使うようなカウンターの、低いのが、立派なのがあって、それから椅子も無い、テーブルが汚い、多分テーブルは新しいのを買ったんだろう、でも椅子は毎年予算で買ってもらったから立派なのがあるからそれに合ったテーブルが出来るんだろうなと思っていたら、そこは予算入っていませんけど、カウンターはあります、カウンターはいらないけどテーブルが欲しかったんだよなど。

(高杉市長) 星野さん言っているのは水海道西中のこと。例えば水海道西中は新しくしましたよね。私のちょっと前の時代なんだけど、その時に学校図書館については、意見聴かなかったの？

(星野委員) 現場の先生、教頭先生などが行ったと思うんですけど、そういうのがあるけどそれをどうのじゃなくて、例えばね、私たちが折角出来る前にこんだけの会議を持っていたらこれだけの意見が出ている訳だから、何とか出来る場所があるんじゃないかなあと、今ハード面は思うのです、ソフト面も財政課でやりますと言われてたら、私たちの意見は何処で反映されるかなと思います。

(高杉市長) 出していただいた意見は、私は十分取り入れます。

(平間課長) 今、お配りした中にキッズコーナーっていうのがオレンジというか赤っぽくなっていると思うのですが、左側の方ですね、実際はそこに授乳室とキッズコーナーと分かれています。キッズコーナーと授乳室があってその反対側に子どもすくすく課ですかね、ですからここで保育所関係の手続きをやっている間にこちらにいます。ここが先程言っていた市

民ホールです、これがまだどういうふうになるか。

(高杉市長) 市民課の窓口は何処ですか。

(平間課長) こちらへんが市民課ですね、市民課があって健康保険課ですか。

(高杉市長) それはワンフロアでサービスが出来るわけでしょ。

(平間課長) そうですね、例えばお子さん連れで転入して来たときは、市民課で転入届をやって、健康保険課でマル福とかの手続きをして、なおかつその先行ってちょっと子どもすくすく課で保育園の手続きをして。

(高杉市長) そこはワンフロアで出来るようになっているんだね。

(平間課長) 税関係が反対側に入っていますね、収税課と税務課。

(高杉市長) それが入口入って直ぐにサービスが出来きますよというかたちですね。

(平間課長) 税金等お支払いする時は、会計課が反対側にありますので、1階ワンフロアでかなり用は足りるんじゃないかと。

(高杉市長) すくすく課の説明をしてください。

(平間課長) 玄関がこちら、今見てもらっている右側の方から入るようなかたちになります。ちょっと子どもすくすく課が一番奥になるんですけど、奥に子どもすくすく課がありまして、その反対側にテーブル、カウンターがあって椅子に座って手続きをしていると思うんですけど、その反対側にはキッズコーナーがありましてその隣に授乳室があります。ですからこの辺でキッズコーナーの目が届くところにはあると思うのですが、ちょっと実際に出来てみないと私もわからないのですが、先程言われたように目の届く所に置くのが一番かと。

(木村委員) すみませんいいですか。前回の会議録を貰ったのを見ていたのですね、市長が諮問したのはソフト面での市民サービスが少しでも向上出来るようにどうしたらいいかって書いてあるので、ハード面までここに入っていくとまとまらなくなるんじゃないかと思うのですが。

(高杉市長) ただハード面でもある程度部分的なものは。

(木村委員) 俺、工事やっているんですけど、ここでハード面いじったら、現場がめちゃくちゃになっちゃうと思うんですけど。

(高杉市長) いやいや、だからそういうのは出来ないけど、ある程度は。

(木村委員) ソフト面と言われても先程言われたベッドの置き方とかそういう配置というのはソフト面だと思うんですけど、そういう意味で前回、ボランティアの活動、活用とかいろんなのがあった方が、運用方法とかいろんな意見が出たやつっていうことなのかなあとと思います。

(高杉市長) そういう意味で、ソフト面の中には配置だとか多少ね、いまでも変えられる事は部分的にはあるという理解でいいと思います。

(平井副会長) 何処でやるとかね。中山さんの掲示物、作品を提示したりという、これ凄く良いと思います。どこかでもやっていますよね、取手とか西と東の通路の所にほんとにいつも綺麗に作品展示してありますよ、定期的に入れ替えているんですけど、陶芸があったり手芸があったり絵があったりね、ほんとに良いですよ、そういうのが市役所にあると、それをボランティアの人達が関わっていくような仕組み、先程市長さんがおっしゃった、ついでになりますけど花の詩画展、これ本当に素晴らしいし折角有名な人ですから、私、別の委員会に入っていて、これほんとにいいからもっと宣伝してって言っているんですけど、8月10日までですよ、市長さんが言われたように275名のボランティアの方々が折角その仕組みが出来上がったんで、できれば今度はまた有名な人の計画をしてボランティアの仕組みで、常総っていうのは、そういういつも何か良い作品が見られるんだっていうことが徐々に広まっていくとい

いのかなって、美術館が無いにしても、無くたって物が良ければ良いと思うんですけど、その先の市民ホールで出来ますかね。

(沼尻会長) 市民ホールってのは面積的にはどれくらい。

(平井副会長) 会議や何かもするんでしょうけどね。そういうスペースでもあるんですね、椅子なんかもあるんですか。

(木村委員) 椅子がね56席です。

(平井副会長) なんとなくの空間ですよ、きっとこれ市民ホールっていう名前が付いていて。自由空間なんですよ、いろんなことができますよね。

(木村委員) 会長、進め方なんですけど、先程、市長さん言われたように、例えば市民ホールについてはこのような活用方法と運用方法をしてもらいたいとか、例えばキッズコーナーはこういうふうな形にしてもらいたいとか、おそらくここまで来て漠然としてというよりも、具体的な方法としてこういうふうな運用方法とか、中をこういうふうについでいうような、皆さんが挙げてもらった提案をそこに当てはめて考えるような方がきっと市にはわかりやすく言えるのかな、先程、市の職員さんが休むところ無いと、確かにと思ったように、こっち側に入れば今の庁舎に食堂か休憩室をワンフロアに造れないのかとかそういうふうなかたちの方がきっと、これ全部まとめようとしたら大変なことになっちゃうと思うので。

(沼尻会長) これから絞っていかなくちゃならないと思うのですが、それをどのようにしていくか、皆さんの優先的な問題もあると思うのですが。

(星野委員) 私たちの希望を一応出しましたよね、とりあえずは。これが私たちの大体の希望で、後は出来てみないとわからないんですけど、逆にさっきの計画立てている役所の考えのところで、ここは市民の人の意見が入れるな、というところを教えていただいて、それを私たちがちょっと検討するっていうかたちの方が進み方は良いと思うのですが、そう

じゃないと私たちばかりがこうだこうだと言っても多分無理だと思うのです。意見だけで終わっちゃうと思うんですね。だけど役所だけでは手が回らないから、市民の方とかこういう会議で話し合ってもらえればいいなっていうのをちょっと分けてもらった方が、私たちも意見を出しやすいような気がするんですが、全部要望を叶えてもらいたいのはやまやまなんですけど、そこまでいくっていうのは難しいと思うので、じゃないと話が前に進まないと思うんですが。

(沼尻会長) この新庁舎内の利用、これについてもいろいろ検討していかなくちゃならないしそれについて今、星野さんが言われたように、職員の方々の意見が出ている訳ですね、それがどのへんまでできるか詰めてもらって、こっちはこっちでやっぱり詰めていかなくちゃならないと思うんですよね、だからこれから何回かの中で絞り込むという、そういう中で、市の職員の方々の意見をまとめたものを突き合わせて行かなければならないと思っています。

(須藤委員) 私、職員の代表として出ていますが、それは考えないで結構です。こちら側の一方的で良いと思います。職員ではなくて、一応、市の職員も一事業者、一市民としての提案にしていますので、こちら側の意見は全く、こちら側の一方通行で大丈夫です。

(木村委員) みな同じような状態なんですよ。

(須藤委員) そうです。たまたま市役所の職員であるだけで。

(星野委員) でも確かに職員さんの食堂ってのは良い案ですけど、そこに市民の人もお弁当持ってみんなで食べられる広場みたいにすれば一緒になって、そういうのを一つずつ崩していけば、駐車場だってあの広い所、職員の駐車場って言われたとき、えって思ったけども、出かける時はみんなあそこ止めていいんだよって言ったり、お祭りする時は使うんだよって言われれば、あ、なるほどって思うんだけど、これ見ると職員さんの食堂は確かに無いから可哀そうだけど、そこを職員さんの食堂にしてはダメで、市民の人と一緒に弁当持って行くところ無い時に行くところとし

て。

(須藤委員) 大胆な発想で、この市民ホールをお昼休みは食堂にしちゃうとかね、そういう大胆な発想でね、市民の方もどうぞそこで食べてください、職員も食べさせていただけますと、一つの大胆な発想ですけど。

(星野委員) そういう話だったら私たちも関われるでしょう。そういう話し合いに私たちも入れればいいなと思います。

(沼尻会長) 結局ですね、先程申し上げましたように、別の考えてことではなくて一緒だよということで進めて行ければと。

(星野委員) 余談ですけど、この間、横浜行って中華街の近くのバス乗り場で、ちょっと時間がある時に、生活安全課の支所があったので、そこでトイレに、年配の方たちが何人かいて、トイレ借りようかって言ったら、ダメ！観光客はダメって、あっちの、橋の向こうの、道の向こうにそういうトイレがあるからそこ使いなさいって言って、ダメって言って、もう杖付いたおばあちゃんをせっかく3階まで連れて行ったのに、そうじゃなくて、やっぱり観光客も大事にするようなそういった場所が、ここ常総市にもあったらいいなって思って、どうしてダメって言われたのかわからないんですけど。だからさっきのホールに、観光客の方とか、市外の方も来られる、市役所ってのは市の方だけが利用するんじゃないんだよっていうイメージも必要じゃないかなーと思って、そういうのもちょっと入れてもらいたい。

(沼尻会長) いろいろやっぱりね、誰もが利用出来るようにね。

(木村委員) 先程言ったように、市の方で一応聞いてもらって、ハード面とソフト面でどういうふうなところまで意見や、活用できるスペースが、例えば市民ホールだったり、こちら側の食堂、こちら側の旧館のスペースがあるからとかそういうふうなものがわかれば、そこに当てはめて、みんなで諮った意見を集約していったらというのはどうですかね。意見としては皆さんから出ている訳ですから。

(沼尻会長) 今度、新庁舎出来た場合、第3分庁舎は空くのですか。

(高杉市長) そこは空きます、有効活用します。

(沼尻会長) だからそこをね、いろいろな。

(高杉市長) あれは須藤さん、今の段階では第3分庁舎の活用についてはまだ決まってるよ。そういう意見は聞けるよ。例えば、市民ホールの使い方であるとか、あるいは第3分庁舎は残すわけだから、最初の意向だと市民会館の会議室的に市民に使ってもらおうと。

(須藤委員) 開放するような方向で聞いているのですが。

(高杉市長) そうそう開放するような方向でやっているんですよ。

(高杉市長) ただ、形がああいう形ですので、どういう風にレイアウトするか全く白紙なんじゃないかと思います。新庁舎出来て今の本庁舎も改修しますので、それが終わってからなのでちょっと時間がずれるのです。

(沼尻会長) 第3分庁舎は区切りってのはないですね。

(須藤委員) 無いです。使い勝手は自由になると思います。

(木村委員) 新庁舎の中でこちらの意見の言える場所、それに伴って旧庁舎で空いているスペースはこれだけあるから、私たちは新庁舎でここまでやりたいけども、この部分は出来ないって言われたら、旧庁舎の方にその意見を取り入れてどういう風な活用をしていくかということ相談していけばいいんじゃないでしょうか。無理に新庁舎にこれ絶対という訳ではなくて。ですから今言われた第3分庁舎が空くとか、旧庁舎のレイアウトでどこかが空いてくるとか、それだけ出してもらって次回、それに集約して今出た意見、皆さんが出した意見をまとめて、どういうのがいいのかなどとやったほうがいいんじゃないかと思うのですが。そうじ

ゃないと、ばらばらばらばらでまとまらなくなっちゃうんじゃないかと思うんですけど。

(沼尻会長) これはどうしますか、いろいろまた、次回会議までの間に、いろいろ個人個人で詰めてもらって、それで検討するってのはどうですか。

(中山委員) まだ時間はありますので、先程木村さんがおっしゃたように、もう一度解説していただけますか。

(木村委員) 例えば、市民ホールだったら先程言われたように貸したり、お昼の時期は食堂で開放したり、例えば市民ホールであれば、そういうみんなの意見をまとめて、市民ホールに対してはこういう方向性でお願いしますよとか、第3分庁舎が空いてくるんだったら、そこに子どもたちの一時預かりじゃないけれども集約した施設を作ってくださいとか、ハード面で空く所の場所と、市民ホールとか市役所の新しい中でソフト面で私たちどうやって協力して要望入れるかという部分をつめるように次回までに考えて来てもらって、皆さんが意見を持っている訳ですから、だれだれさんの意見と、この意見を混ぜるとこうなるから、ここで市民ホール活用できないかっていうことを次回討論したらいいんじゃないかと思うんですけど。

(沼尻会長) それ以外の場所で、やはり現在の石下庁舎、これも空いている訳ですよ。いま図書館の問題もありますけども、石下の方にも一箇所、図書館の要望で、現在地域交流センターの2階にあるんですが、確かにあそこは階段上がって行ってね、ちょっと行きづらい場所ですよ、だからそういう所ではなく、やはり石下庁舎の空いたところでも、福祉センターの空いたところでも、やっぱり図書館なんかは開設することが出来る訳ですけど、次の会議までに検討してもらって、出来るものを先に進めていくということではいかがでしょうか。よろしくお願いします。

3のその他、次回の日程調整ですが、事務局の方で。

(渡邊係長) 次回の日程調整ですが、状況から見ると、2回では足りないようですよ、あと3回ぐらいは必要じゃないかと。例えば過程しますと、10

月の同じ木曜日であれば9日9時半でどうでしょうか。10月9日木曜日の9時半、同じこの会議室ということで設定したいと思います。

考えて来てもらうというのはどういうふうに、何か具体的にまた挙げてもらおうとか。

(木村委員) 先程言ったように、庁舎は今回図面もらったので、新庁舎のことはわかるんだけど、それ以外のそれに伴って先程言った第3分庁舎なりいろんなものがハード面で入ってくるので、使える場所もありますよという提示までしてくれれば、まず新しい新庁舎に関するソフト面に対して考えて、そこでまだ空いている所があったら、これは良いことだけど、ここには入らないから、そっちでも活用したらというふうになってくるんじゃないかなと思います。まずメインは新庁舎でしょうから。だからそういう空きスペースが、第3分庁舎も空いてくるので、言うだけでも良いんじゃないかと思うんですけど、やり方としては。あくまでまず基本は新庁舎のソフト面を考えて進めていって、でもいろんな良い考えがあるのに、使えるのにもったいないから、空くのであれば第3分庁舎だったらこういうのが出来るんじゃないか、そちらに振ってあげてというやり方のほうがきっと意見は無駄になっていかないんじゃないか、みんなの意見が、せっかく出たのにとします。

(星野委員) でもいろんな課が関わるようになるんですね、そうすると。

(木村委員) どうなんでしょう。管理している課がみんなばらばらだから、全て俺達の仕事じゃないよね、市長の仕事でしょうから。

(星野委員) 確認しておかないとね。あの課だからわかりません、この課だからわかりませんと言うと、会議って時間内でやるのもったいないので、市長に権限を。

(木村委員) 居てくれているわけだから大丈夫ですよ。

(沼尻会長) それでは皆さんからいろいろ貴重なご意見をいただいているところですが、この中でいろいろご意見いただいて、新庁舎についてはこうい

うのどうだろうってことで、大体絞ってもらって次回10月の9日ですか、会議までにまたよろしくお願ひしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(星野委員) 会議の前に書類、大体出来あがったものはいただけるのですか。

(木村委員) 使える場所、出来るスペースが。

(沼尻会長) ちょっとよろしいですか。皆さん次回会議までにご検討いただく資料として、皆さんからいただいたご意見を事務局でまとめた資料なんですけど、この諮問の資料として今日の資料の中に付いていた訳ですね、これを基にいろいろとご検討いただきたいと思いますと思うのですが。

(星野委員) 私たちがですか。

(沼尻委員) これ皆さんの方から全部出してもらったものを事務局の方で大方、ここに乘せたものなんですけれども。

(須藤委員) 私も案と言ったら変なんですけど、今日お渡しした次第の次にある諮問1、諮問2で3枚のものがあると思うんですが、それとは別に先日お送りしたもう一つの資料が、今日お持ちいただいた、二つあると思うのですが、こちらめいめいの委員さんからまとめてきた案ですと、対象物がバラバラなので、事務局の方で急遽、今回まとめましたので、これの項目立てで検討していく、ということでよろしいか、ということで。そこがまだ決まっていなかったの。

(中山委員) 重複するところがあったので、これがいいですよ。

(須藤委員) ですから複数の委員さんが同じ意見、いくつもありますので、これを基にさせていただいて、各委員さんの物は補助的に使っていただいて、皆さん次回の時にこの意見は適さない、無理だとか、継続だとか、もっと膨らませるようだとか、さらに補足して考えていただければ、次回の委員会で煮詰まっていくなかなと思います。そういうような考え方で議

長さん。

(沼尻会長) よろしくお願ひします。

(須藤委員) 事務局としては、並行してこれを見て、叶えられるかどうか事務局の方で詰めてと言うことですね。特にハード面ではね、私はちょっと逆になってしまいますけど、叶えられなくても例えば先程言ったように図書館なんかも、多分直ぐには出来ないと思ひますけど、石下の図書館などは、10億とかそういう世界ですので、ただ皆さんの意見として、やはり図書館をと言う希望があれば、それは将来のまちづくりにはあっても良いのではないかと、私個人的ですけど、そういうのは別にカットしなくても良い気がするのですが、皆さんの意見が整えば、現実的な物は当然、将来的なものは。

(木村委員) 教育委員会は福祉センターですよ。教育委員会無くなったらあのスペースまるっきりオープンスペースが図書室になると思ひうのですが。

(沼尻委員) あれは空いた場合はありますね。

(木村委員) ただ仕切り作るだけでしょう。それは2, 3百万あれば仕切りが出来ると思ひうんですけどね。福祉って言ったって、空きスペースで何も使わなかったら良いと思ひうんですけどね。

(亀井補佐) 補助事業使っているから、別で。

(木村委員) 例えば、キッズスペースの拡充したら、そこに本があつたんじゃないですか。解釈だと思ひうのですが、補助金がひも付きになっているから、それだからこれしか使えない、だからこれしか使えないと市役所は言ひうのですが、私たち市民からすればそれはその補助金が持ってきたから使えないだけで関係無いもね。

(横田委員) 別に教育委員会が入っている時点で福祉と違ひうじゃないですか、それが教育委員会があつた所に図書館が置けない理由が全くわからない。

(木村委員) 内部の問題ですもんね。

(横田委員) 筋がとおらない。

(木村委員) 解釈の問題で出来るはずだと思うのですが。

(沼尻委員) あそこは結構広いですよ。

(星野委員) 教育委員会があそこのままだって言いませんでしたか。

(木村委員) いいえ、石下分庁舎の方、北側の方に移っちゃうから。

(須藤委員) 今の都市建設部がこっちに移っちゃうからそこに行くわけです。

(星野委員) それじゃもったいないわ。会議室もあるし。

(沼尻会長) だから随分空くわけですよ。

(須藤委員) ですから意見を率直に言っていただいて、理由は何で出来ないのかってというのは市サイドの方から回答なりあるかと思しますので、それはそれで意見としていいのではないかと思います。一委員としては思います。ですからどんどん言っていいと思います。行政的に無理って言うこともあると思いますし、可能なこともあると思います。まずは言うただかないと、行政はこういう目線なので、横からってのは考えられないので。その辺はどんどん言っていただいて、そういう目的のまちづくり推進条例だと思いますので、是非ともご意見いただきたいと思います。

(沼尻会長) それではそういうことでよろしく願いいたします。どうも長時間いろいろご協議いただきましてありがとうございます。どうも市長さん、ありがとうございます。

(平間課長) すみません、市民協働課からもうひとつお願いがあります。男女共

同参画の方で、8月の24日、石下の地域交流センターで武田先生の講演会があります。これ昨日の出たそうなんです、ホンマでっかTV、私観なかったのですけども、ここに出ている人だそうです先生は。昨日も出ていたそうです。24日の午後なんですけども交流センターでやりますので是非皆さんお誘い合わせのうえ参加いただきますようお願いいたします。申込は市民協働課で受け付けていますので、名前と連絡先がわかれば大丈夫ですので、よろしくお願ひします。定員は500人になっているのですが、交流センター1,000人から入れる所なので大勢の方に来てもらえればいいなと思っています。よろしくお願ひします。

(渡邊係長) もう1点なのですが、前回第1回の議事録を皆さんにお送りしまして、意見ありませんかとの問合せをしたところなんです、委員さんの中から会議録の中に、あーとか、うーとか、えーとかそういうのが入っていて、それは止めた方がいいのではないかという意見がありました。その辺は整理しまして、読みやすいようになるべく事務方でいじったりしないようにしたいと思っているのですが、そういうことでよろしいでしょうか。ホームページに載せたいと思います。

(星野委員) 名前は入れないのですね。

(渡邊係長) 名前はなに委員が言ったというのは載せます。

(木村委員) そこまで公開するのですか。

(渡邊係長) はい。基本的にそういうふうに公開するという事は法制係に確認しています。

(木村委員) 次回会議から、みんな黙ってしまうんじゃないの。

(渡邊係長) そうですよ。結局、傍聴入れるとか公開するということになると、発言が、活発な議論が出来ないんじゃないかというところが一番心配しているところなんです。そうではなくて、公開されても発言してほしいというのが私たちの。

(星野委員) 名前を入れなくちゃダメなんですか。

(渡邊係長) 基本的に、星野委員、こういうふうにした。と入ります。やり方は色々なんですけど、そういうふうにするべきだとなっています。

(高杉市長) ちょっといいですか。今の新庁舎が出来るに伴って、今ある施設がどうなるかということで、多少動きがあるので、決定ではないのですが、状況で一つ報告をさせていただきたいのですが、石下の今の総合福祉センターありますよね、そこに今、教育委員会が入っています。新しい庁舎が出来ると、今の石下庁舎に入っている建設部はこちらに来ます。ですから石下の今の庁舎が空きます。教育委員会がその庁舎に行くこと、これは決定しています。問題は総合福祉センターの中で教育委員会が入っているところがどうなるか。当初はそこに石下の図書館を造ればいいなと議論をしていたのですが、今度、国の方で介護予防事業に力を入れて、介護保険にかからなくても済むような前段階の健康施策と初期の段階のリハビリに力を入れていこうということが国でこの間の6月の国会で決まりました。そうすると今年の秋ぐらいから、常総市も試験的に介護予防、健康施策の事業をしなくちゃならない。そこに今の教育委員会の場所を使って、健康施策と介護予防事業をやろうじゃないかということで、今のところは進んでいますということをご報告しておきます。今のところはそういう方向で進んでいます。

(木村委員) でも、まあ、石下庁舎2/3は空くってことですね、教育委員会が移転したとしても。スペース的には。窓口は使うんですか。

(高杉市長) 総合窓口センターはありますから。

(亀井補佐) 建設部が入っているスペースだけですから。

(木村委員) それじゃスペースは無いですね。無いね。

(平井委員) そんなに無いよね。

(星野委員) でもこっちは空くから図書館じゃなくって。

(高杉市長) 予防事業をやらなくてはならないと国で決まっていますから。

(星野委員) あの奥の社協も移動するのですか。

(高杉市長) あくまで途中経過で正式ではないですけど。

(堀越委員) 先程の議事録に戻るんですけど、見る方もあんまり長いとやっぱり辛いと思うので、なるべく簡潔に、本人の趣旨からずれなければ要約してもらったほうが良いと思うんですけど。

(木村委員) 文章おかしくて恥ずかしいもの。自分で読むのが恥ずかしかった。

(須藤委員) その辺は私も思ったのです。基本は言ったものなのですね。ただそういう意見が皆さんの主流でしたら私も要約したほうがと。

(平井委員) 自分の意見と違って書かれちゃったというのがいやなのだよね。

(須藤委員) だから基本はそのままなんですけど。

(星野委員) 難しいよね、そこはね。

(木村委員) その本人の意思の言いたいところがね、要約したと思ったら削除しちゃったとかね。

(須藤委員) ですからホームページとか載せる前に今回もそうですけど、皆さんに一応了解を、見ていただいて踏まえたと思うのです。ですから今後そういうかたちで。

(木村委員) 不思議と文書に書かれると恥ずかしい。

(渡邊係長) 要約したものを、もう一回お送りして確認してもらってからにしますか。

(堀越委員) 送らなくてもいいです。

(木村委員) 任せるって。

(渡邊係長) 任せるけど、あまり長くないほうがいい。実際やってみると結構長くしゃべっているのですね、みなさん。

(木村委員) 渡邊さんのセンスに任せます。

(渡邊係長) わかりました。

(沼尻会長) それではまた、よろしく申し上げます。